

平成27年6月29日

広島大学 被爆70年関連事業について

本年は原爆が広島と長崎に投下されて70年を迎えます。

節目となる本年、広島大学においてもさまざまな視点から平和を考える企画事業を開催します。

企画事業は、「被爆70年関連事業」のとおりです。

被爆70年関連事業

	実施期間		事業名称	開催場所	事業概要	担当部局
	日	時				
1	6月29日(月) ～7月6日(月)		「No NuKes」パネル展	広島大学中央図書館 地域・国際交流プラザ	広島大学、長崎大学、福島大学の現役学生7人が編集した『No NuKes』のパネル展。	図書館(共催) ※主催:広島大学生協
2	7月3日(金) ～6日(月)		企画展「原爆白書運動と広島大学」	旧日本銀行広島支店 1階ロビー	原爆白書運動の中心人物であった金井利博の足跡を中心に、今堀誠二氏、湯崎稔氏らの取り組みを紹介する。	文書館
	7月4日(土)	14:00～15:30	講演会「金井利博と原爆白書運動」	"		
3	7月9日(木) ～15日(水)		企画展「原爆白書運動と広島大学」(縮小展示)	広島大学中央図書館 地域・国際交流プラザ	学生、教職員、一般を対象とした国際シンポジウム。これまでの核廃絶に向けた取り組みを客観的に振り返り、実施的な核廃絶に向け「市民社会」がどのように貢献できるかを議論し、グローバルな平和への展望をさぐる。	平和科学研究センター
	7月28日(火)	9:30～17:30	国際シンポジウム 「恒久的な平和への取組みと市民社会の可能性—核廃絶に向けた70年の軌跡と今後」	広島国際会議場 地下2階 ヒマワリ		
4	8月6日(木)		第11回 原爆死没者・戦没者慰霊追悼の集い	広島大学附属中・高等学校 「慰霊碑」付近	本学関係の原爆死没者・戦没者を慰霊追悼し、被爆体験を継承する取り組みを行う。	附属中・高等学校(共催) ※主催:アカシア会
			「被爆体験を聴く会」	広島大学附属中・高等学校 講堂		
5	8月6日(木) ～8日(土)	8/6(木) 8:15 ～8/8(土) 6:15	「Recognition of History : 歴史の思考—ヒロシマ」	広島大学法人本部棟 玄関ロビー 広島大学中央図書館 玄関ロビー 広島大学東千田キャンパス 東千田総合校舎S棟玄関ロビー	本学学生が寄贈した原爆瓦を使用した現代アートの展示を、ミュンスタ大学(ドイツ)と共同開催するアートプロジェクト。	学術・社会産学連携室 研究企画室
6	8月7日(金)		「INU 学長サミット」	広島大学東広島キャンパス及び広島市内	本学において毎年開催しているINU学生セミナーに合わせ開催する。各加盟大学の長が本学を訪問するとともに、INU加盟大学間の連携強化とINUを活用した平和・環境分野における協働事業展開の議論を行う。	国際・教育室 国際交流グループ
7	8月8日(土)	10:00～15:20	広島大学総合科学部一日体験入学 大学生をやってみよう	広島大学総合科学部	高校生、一般市民を対象とした一日体験入学で、模擬講義として「ヒロシマの訴える平和:被爆70年をふりかえって」を行う。	総合科学研究科支援室

8	8月22日(土)	13:30~16:50	シンポジウム 「人の平和と安全ー被爆70周年・広島土砂災害1周年ー」	広島大学東千田キャンパス 東千田総合校舎(S棟)302講義室	国際法、民法学の立場から「平和と被爆70年」及び「大規模災害と復興」についての討論等を行う。	法務研究科
9	8月~9月 12月~2月		似島原爆死没者御遺骨御遺品発掘作業	広島市南区似島	原爆死没者の御遺骨御遺品を発掘し、ご遺族が健存な間に原爆死没行方不明者の手掛かりを探します	教育・国際室 国際交流グループ
			似島原爆死没者 発掘御遺品の展示会	未定(広島市内)		
10	9月5日(土)	14:00~	「被爆70周年を追悼する歌の展覧会」	アステールプラザ 大ホール	広島大学合唱団の常任指揮者を務めた西尾優氏の企画・指揮による演奏会。合唱には、広島大学合唱団OB・OG、現役学生も参加し、被爆70年を機に校のない平和な世界の構築に向けたメッセージを発信する。	広島大学(後援) ※主催:「被ばく70周年を追悼する歌の展覧会・実行委員会」
11	10月~12月		チェコ共和国へ原爆ドーム破片「デンティル」の発送を行う		原爆ドーム設計者の母国にドームの破片を展示し、平和発信を行う。	教育・国際室 国際交流グループ
12	10月~12月		平和公園供養塔前での慰霊音楽祭	平和祈念公園内無縁仏供養塔前 原爆ドーム前対岸元安川テラス	原爆で死没し無縁仏とされた方々への慰霊を行う。演奏者は、広島大学生、原爆死没者ご遺族など。	教育・国際室 国際交流グループ
13	11月14日(土)		第10回日本語作文スピーチコンテスト	中国:首都師範大学	被爆70年の今年開催する「第10回日本語スピーチコンテスト」の作文テーマを「平和な未来へー私からのメッセージ」とし、将来日中両国の懸け橋となるであろう人材からのメッセージを発信する。	北京研究センター

「No Nukes」パネル展

ノーニュークス

「核なき世界」は、きっと来る

本書には、広島大学・長崎大学・福島大学の
現役大学生7人が編集スタッフとして参加しています。
知る。考える。そして、伝える—。
被爆者、被災者、作家、学者、写真家、俳優、
音楽家、アーティスト、学生……
みんなの思いが1冊に。



広大生が選んだPeace Book



生協北1コープショップ

核とは共生できないと
全世界に訴えることが、
国際社会に対する責任だと思う。
—坂本龍一—

「核なき世界」は
きっと来る

「伝える、受け止める。
また伝える、また受け止める」
とても大切です。
—吉永小百合—

広島大学
長崎大学
福島大学の
学生と
共同編集
講談社

6/29(月)~7/6(月)

9時~17時50分(土・日は10:15開場 7/6は16:00開場)

広島大学中央図書館 **地域・国際交流プラザ**

主催:広島大学消費生活協同組合

共催:広島大学図書館

連絡先 広島大学生協北1コープショップ Tel 082-423-8285

企画展「原爆白書運動と広島大学」

被爆 70 周年の記念事業として企画展「原爆白書運動と広島大学」を以下の要領で開催します。

○第 1 期

期間 平成 27 年 7 月 3 日(金)～6 日(月)

会場 旧日本銀行広島支店 1 階ロビー

○第 2 期（縮小展示）

期間 平成 27 年 7 月 9 日(木)～15 日(水)

会場 広島大学中央図書館 地域・国際交流プラザ

○講演会

題目 「金井利博と原爆白書運動」

講師 小池聖一（広島大学文書館長）

日時 平成 27 年 7 月 4 日（土）午後 2 時～午後 3 時 30 分

会場 旧日本銀行広島支店 1 階ロビー

原爆白書運動とは、核戦争を防止するため、原爆被災の全体像と被爆体験を科学的に調査し、その記録を永久に残すとともに国連を通じて全世界に公表するよう、日本政府に求めた運動のことです。

運動の中心人物であった金井利博（中国新聞社論説委員）の足跡を中心に、今堀誠二（広島大学総合科学部長、県立広島女子大学長）、湯崎稔（広島大学原医研助教授、のち総合科学部教授）、大牟田稔（中国新聞社論説委員会主幹、広島平和文化センター理事長）、平岡敬（中国放送社長、広島市長）らの取り組み（爆心地復元事業等）を紹介します。

なお、本企画展は、核・被ばく学創成研究会（代表：小池聖一）、広島大学文書館、広島大学原爆放射線医科学研究所、広島大学平和科学研究センターの連携事業の一環です。

【お問い合わせ先】

広島大学文書館（館長 小池聖一）

TEL:082-424-6050 FAX:082-424-6049

企画展

主催：核・被ばく学創成研究会(代表 小池聖一) 広島大学文書館

原爆白書運動と 広島大学

入場無料

第1期

平成27年

7/3(金)~6(月)

10:00~18:00

■会場

旧日本銀行広島支店 1階ロビー

〒730-0036 広島市中区袋町5番21号

市内電車「袋町」下車

■講演会

「金井利博と原爆白書運動」

講師 小池聖一 (広島大学文書館長)

日時 平成27年7月4日(土) 14:00~15:30

会場 旧日本銀行広島支店 1階ロビー



原爆白書運動とは、核戦争を防止するため、原爆被災の全体像と被爆体験を科学的に調査し、その記録を永久に残すとともに国連を通じて全世界に公表するよう、日本政府に求めた運動のことです。運動の中心人物であった金井利博の足跡を中心に、今堀誠二、湯崎稔らの取り組みを紹介します。

第2期 (縮小展示)

平成27年

7/9(木)~15(水)

9:00~17:00

■会場

広島大学中央図書館

地域・国際交流プラザ

〒739-8512

広島県東広島市鏡山一丁目2番2号



■主催：核・被ばく学創成研究会(代表 小池聖一) 広島大学文書館

■共催：広島大学原爆放射線医学研究所 広島大学平和科学研究センター

■後援：中国新聞社

■お問い合わせ

広島大学文書館 (ひろしまだいがくぶんしょかん)

電話：082-424-6050 (平日)

E-mail bunsyokan@office.hiroshima-u.ac.jp

なお、本企画展は、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究B「広島における核・被ばく学研究基盤の拡充に関する研究」(26280123)の研究成果の一部です。

「恒久的な平和への取り組みと市民社会の可能性

－核廃絶に向けた70年の軌跡と今後－

今年は、広島・長崎への原爆投下から70年の節目の年を迎えます。この節目の年に、平和科学研究センターでは、「恒久的な平和への取り組みと市民社会の可能性－核廃絶に向けた70年の軌跡と今後」と題して、学生、教職員、一般を対象とした国際シンポジウムを開催します。

これまでの核廃絶に向けた取り組みの中から、いったい何が達成され、何が克服すべき課題として残っているのか。これらを客観的に振り返り、核廃絶に向け実質的に前進するために、NGO、個人、企業、大学、地方自治体等の「市民社会」がどのような貢献をすることができるかを議論し、グローバルな平和への展望を探ります。

■第Ⅰ部

- ・パネディスカッション：テーマ「核廃絶に向けた努力の軌跡と今後」
- ・パネラー OSCE ウクライナ特別監視団代表 Ertuğrul Apakan 大使
Japan World Trend 代表で元在ウズベキスタン・タジキスタン大使 河東哲夫氏
外務省軍縮不拡散・科学部長 引原毅氏
平和科学研究センター准教授 友次晋介氏
- ・基調講演：タイ国元副首相 Dr. Surakiart Sathirathai 氏

■第Ⅱ部 市民社会の可能性とグローバルな平和への展望

- ・パネルディスカッション：
テーマ「市民社会の可能性とグローバルな平和への展望」
- ・パネラー：Japan Society 理事長 櫻井本篤氏
昭和女子大学学長 坂東真理子氏
スティムソン・センター副所長 Brian Finlay 氏
東洋大学教授 薬師寺克行氏

【日時】 2015年7月28日（火） 9時30分 - 17時30分

【場所】 広島国際会議場地下2階ヒマワリ

【言語】 英語 / 日本語（同時通訳付）

【お問い合わせ先】

広島大学平和科学研究センター 小倉亜紗美
TEL:082-542-6975 FAX:082-245-0585



1st International symposium 2015
平成27年度第1回国際シンポジウム

HIROSHIMA UNIVERSITY



Efforts for global peace and potential of the civil society
—the review of international pursuits towards the ultimate abolition of nuclear weapons
in the last 70 years and the path to the future

恒久的な平和への取り組みと市民社会の可能性
—核廃絶に向けた70年の軌跡と今後



2015 marks 70 years since the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki. Although a large number of people lost their lives and suffered harrowing experiences, the world has not achieved abolition of nuclear weapons, WMD(Weapons of mass destruction) that could even drive mankind to the verge of extinction. At the same time various attempts have been globally made for nuclear disarmament and non-proliferation, while related grassroots actions have spread across the world.

In this symposium, we will explore how we can conceive of the future prospect for the world without nuclear weapons, while objectively reflecting on what has been achieved and what has not been done in the international efforts of eliminating nuclear weapons, and prospecting whether the global expansion and connectivity of matured "Civil Society" such as NGOs, business, institutions of higher education and municipal corporations will essentially change the way in which world politics is conducted in the future.

広島と長崎に原爆が投下されてから今年で70年が経過しました。おびたしい数の人命が奪われ、悲惨な状況を経験しながら、われわれは人類の存亡にさえ関わる脅威であるこの核兵器を廃絶するには至っていません。しかしながら、国際社会では核軍縮・廃絶に向けた様々な取り組みがなされてきており、草の根レベルの運動の輪も着実に広がっています。

そこで本シンポジウムでは、これまでの核廃絶に向けた取り組みの中から、いったい何が達成され、何が克服すべき課題として残っているのか客観的に振り返り、核廃絶に向け実質的に前進するためにNGO、個人、企業、大学、地方自治体等の「市民社会」がどのような貢献をすることができるか議論し、グローバルな平和への展望を探ります。

Date & Time: July 28th 2015, 9:30 - 17:30

*Venue open 9:00

【日時】2015年7月28日(火)9:30-17:30

※開場9:00

**Venue: INTERNATIONAL CONFERENCE HALL
HIROSHIMA B2, "Himawari"**

*In the Peace Memorial Park.

【場所】広島国際会議場 地下2階「ヒマワリ」

(広島市中区中島1番5号 平和記念公園内)

*Admission free. 200 seats available.

※入場無料(先着200名)

Language: English / Japanese (with simultaneous interpretation)

【言語】英語 / 日本語(同時通訳付)

Hosted by: Institute for Peace Science, Hiroshima University

【主催】広島大学平和科学研究センター

Seat availability is limited so please apply by e-mail or phone if you are interested in attending. But, You can join in the symposium without reservation, if the seats are left. 参加ご希望の方は、下記内容をFAX(送信表不要)、またはメール(件名を「シンポ申込み:氏名」とする)にて事前にお申し込み下さい。(↓Fax用) 定員を超えました場合、お断りさせて頂くことがあります。また、席に余裕がある場合は、当日参加も受け付けます。

Name ご氏名	Please check which part you will attend. 参加ご希望の部にレを付けてください。 <input type="checkbox"/> Keynote speech/基調講演 <input type="checkbox"/> Session 1/ I 部 <input type="checkbox"/> Session 2/ II 部	<申し込み先/Contact Address> 広島大学平和科学研究センター 〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89 Institute for Peace Science, Hiroshima University Higashisenda-machi 1-1-89, Naka-ku, Hiroshima 730-0053 TEL : 082-542-6975 / FAX : 082-245-0585 E-mail : heiwa@hiroshima-u.ac.jp URL : http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/
Company ご所属		
Tel or E-mail		

Efforts for global peace and potential of the civil society

—the review of international pursuits towards the ultimate abolition of nuclear weapons in the last 70 years and the path to the future
恒久的な平和への取組みと市民社会の可能性—核廃絶に向けた70年の軌跡と今後

9:30 ~ 9:45 Opening Remarks/ 開会の言葉

< Organizer & Session 1 Moderator/ オーガナイザー & 第I部モデレーター >



Mitsuo Ochi
越智光夫
広島大学長

1952年愛媛県今治市生まれ。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局し、ヨーロッパ留学などを経て、2007~11年広島大学病院長、2008~11年理事、2011~12年理事・副学長、2012~15年学長特命補佐を歴任。2015年4月より広島大学長。2010年に文部科学大臣表彰「科学技術賞」、2014年に産学官連携功労者表彰「厚生労働大臣賞」を受賞。医学博士。



Tsuneo Nishida
西田恒夫
広島大学
平和科学研究
センター長

1970年に東京大学法学部卒業後、外務省入省。1999~2001年在ロス・アンジェルス日本国総領事、2001~02年経済協力局長、2002~05年に総合外交政策局長、2005~07年に外務審議官(政務)、2007~10年に特命全権大使カナダ駐劄兼国際民間航空機関日本政府代表、2010~13年に国連日本政府常駐代表特命全権大使などを歴任。2014年4月より広島大学平和科学研究センター長(同特任教授)。

9:45 ~ 12:05 Session 1: Past endeavors for the abolition of nuclear weapon

第I部 核廃絶に向けた努力の軌跡



Ertugrul Apakan
OSCEウクライナ
特別監視団代表
元国連トルコ政府常駐代表



Akio Kawato
河東哲夫
Japan-World Trends代表
元在ウズベキスタン・
タジキスタン大使



Takeshi Hikiyama
引原 毅
外務省
軍縮不拡散・科学部長



Shinsuke Tomotsugu
友次晋介
広島大学平和科学研究センター
准教授

OSCE(欧州安全保障協力機構)ウクライナ特別監視団代表。1947年トルコのイズミル生まれ。アンカラ大学政治学部卒業、エーゲ大学大学院修了。修士(国際経済)。2006~09年トルコ外務省事務次官、2009~12年国連トルコ政府常駐代表。2010年国連安全保障理事会議長。トルコ-EU間の協議やエーゲ海の資源等に関するギリシャとの協議、国連仲介によるキプロス問題に関する交渉、トルコ-アルメニア国交正常化交渉などにも関与した。国連では、ジェンダー、高齢化問題、災害マネジメント等の問題に取り組んだ。

1947年生まれ。ハーバード大学大学院修了。修士。東京大学教養学科卒業後、1970年に外務省に入省し、ドイツ、ソ連、スウェーデン、米国に勤務。東欧課長、文化交流部審議官、在ポストン総領事、在ロシア大使館公使、在ウズベキスタン・タジキスタン大使を歴任。2004年9月より日本政策投資銀行設備投資研究所上席主任研究員。2006年9月に独立し、日英中露語による国際ブログ「Japan-World Trends」を創立(代表)。著書に、ソ連崩壊を背景とした大河小説『遙かなる大地』(熊野洋の筆名、草思社)、『意味が解体する世界へ』、『新・外交官の仕事』、『米中ロシア—虚像に怯えるな』(草思社)等多数。Newsweek等雑誌執筆、テレビ出演多数。

1959年生まれ。1982年に東京大学法学部卒業後、外務省入省。アジア大洋州局南西アジア課長、欧亜局西欧第一課長、内閣官房内閣参事官(内閣官房副長官補付)、在ロシア日本国大使館公使、日本APEC準備事務局長大使等を歴任、2010~12年在ポストン日本国総領事館総領事、2012~13年大臣官房参事官兼欧州局大使、2013~14年大臣官房審議官兼欧州局大使を経て、2014年7月より、総合外交政策局軍縮不拡散・科学部長。

2010年名古屋大学大学院環境学研究所博士課程修了。博士(法学)。フルブライト奨学金を得て2008~09年ジョージワシントン大学客員研究員、2009~11年(独)科学技術振興機構・社会技術研究開発センターアソシエイトフェロー、2011~14年名古屋短期大学英語コミュニケーション学科助教(国際関係)を経て、2014年4月より現職。著書に『対テロ国際協力の構図—多国間連携の成果と課題』(共著、ミネルヴァ書房)、『アメリカを知るための18章—超大国を読み解く』(共著、大学教育出版)など。

12:05 ~ 13:50 Lunch break/お昼休憩

13:50 ~ 14:30 Keynote speech/ 基調講演



Surakiart Sathirathai
タイ王国元副首相
APRC議長
AsianSIL理事

1979年チュラロンコン大学法学部卒業、1985年ハーバード大学法科大学院修了。法務博士(J.D.)。1995~96年タイ王国財務大臣、2001~05年外務大臣、2005~06年副首相、2006年副首相・文化省大臣臨時代理兼任を歴任。2003年ASEANサミット組織委員長、2007~08年及び2013年ネパール制憲議会選挙監視団共同議長(ジミー・カーター元米大統領と共同)。現在はAPRC(アジア平和・和解評議会)議長、AsianSIL(アジア国際法学会)理事。シャムプレミア国際法律事務所等の企業で会長職を務めるとともに、多数の大学で客員教授も務める。

14:40 ~ 17:15 Session 2: The potential of the civil society and the prospect for the global peace

第II部 市民社会の可能性とグローバルな平和への展望



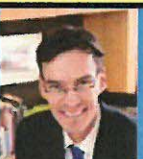
Motoatsu Sakurai
櫻井本篤
Japan Society 理事長

1968年に東京大学法学部卒業後、三菱商事(株)入社。1976年にビジネススクールに派遣され、MBA取得(INSEAD フランス)。1978年にInternational Bank for Reconstruction and Development(世界銀行)へ出向し、1984年米国三菱商事(株)。その後、1985年同社ワシントン事務所(1990年同所長)、1996年社長室会事務局長、1998年取締役、業務部長、2000年取締役、米国三菱商事(株)EVP、2001年常務執行役員、2003年常務執行役員、北米ブロック統括(兼)米国三菱商事(株)社長を経て、2006~09年にニューヨーク日本国総領事館総領事(大使)。2009年4月よりJapan Society理事長。



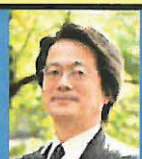
Mariko Bando
坂東眞理子
昭和女子大学長

富山県生まれ。1969年東京大学卒業、総理府入省。内閣広報室参事官、統計局消費統計課長、男女共同参画室長、埼玉副知事、プリズン総領事などを経て、2001年内閣府男女共同参画局長。2004年から昭和女子大学大学院教授・女性文化研究所長、2007年から昭和女子大学長、2014年4月から学校法人昭和女子大学理事長。『米国きりあうまん事情』(東洋経済新聞社、1982年)、『副知事日記』(大蔵省印刷局、1998年)、『女性の品格』(PHP研究所、2006年)、『日本人の美質』(ベストセラーズ、2011年)、『女性の知性の磨き方』(ベストセラーズ、2015年)など著書多数。



Brian Finlay
スティムソン・センター
副所長

カールトン大学大学院修士課程修了(国際関係)。カナダ保健省・疾病管理研究センター・プロジェクトマネージャー、センチュリー財団プログラムオフィサー、ブルッキングス研究所上席研究員などを経て現職。また、スティムソン・センターが進める「越境的な管理」(Managing Across Boundaries)と呼ばれるイニシアチブを統括。国・地域・国際レベルでの革新的な政府の対応、官民連携の推進、越境的な脅威の緩和、および開発問題の改善などに関する諸活動に取り組む。IMMAP(人道援助、開発における情報管理を支援)やBlack Market Watch(不法貿易に対抗するための調査等、諸活動を支援)などの国際非政府組織の顧問もつとめる。



Katsuyuki Yakushiji
薬師寺克行
東洋大学教授

1979年東京大学を卒業し朝日新聞社に入社。政治部で首相官邸や外務省などを担当。政治部次長、論説委員、編集委員などを務め、2005年に朝日新聞社のオピニオン誌、月刊「論座」編集長、2009年に政治部長。この間、2002年に米国のシンクタンク、スティムソン・センター客員研究員。2011年に朝日新聞社を退社し、東洋大学社会学部教授。専門は現代日本政治、日本外交論。主な著書に、『現代日本政治史』(有斐閣、2014年)、『ナショナリズムと外交』(講談社、2014年)、『検証民主党政権』(講談社、2012年)、『村山富市回顧録』(岩波書店、2012年)など。

17:15 ~ 17:30 Closing Remarks/まとめ・閉会の言葉

< Session 2 Moderator/ 第II部モデレーター >

< MC/司会 >



Noriyuki Kawano
川野徳幸
(広島大学平和科学研究センター教授)

広島大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了(医学博士)。広島大学原爆放射線医学研究所附属国際放射線情報センター助手・助教、広島大学平和科学研究センター准教授等を経て、2013年6月から広島大学平和科学研究センター教授。専門は原爆・被ばく研究、平和学。



Asami Ogura
小倉亜紗美
(広島大学平和科学研究センター助教)

2009年広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程修了、博士(学術)。2009~10年広島大学総合博物館客員研究員、2010~14年広島大学国際センター研究員を経て、2014年4月より現職。専門は、環境平和学、環境教育。

「第11回原爆死没者・戦没者慰霊追悼の集い」

「被爆体験を聴く会」

アカシア会（広島大学附属中・高等学校同窓会）の主催行事として、本学附属中・高等学校を会場に以下の行事が開催されます。

■第11回原爆死没者・戦没者慰霊追悼の集い

日 時 : 平成27(2015)年 8月6日(木) 9:00~9:30
場 所 : 広島大学附属中・高等学校 前庭 「慰霊碑」付近
次 第 : 開会のことば
挨拶と追悼の辞
黙 禱
校歌斉唱
指名献花・献水
千羽鶴奉呈
献水
閉会のことば

■被爆体験を聴く会

日 時 : 平成27(2015)年 8月6日(木) 9:45~10:45
場 所 : 広島大学附属中・高等学校 講堂
講演者 : 新井俊一郎 氏(41回生)

【お問い合わせ先】

広島大学附属中・高等学校
TEL:082-251-9881 FAX:082-252-0725

「Recognition of History:歴史の思考ーヒロシマ」

広島大学では、原爆投下の時間に合わせて行なわれる、ドイツ・ミュンスター大学とのアートプロジェクトを共同開催します。

本学広島大学（原爆瓦発送之会）が、ミュンスター大学に寄贈した原爆瓦6破片を使用した芸術パフォーマンスです。

なお、本イベントは、在大阪・神戸ドイツ総領事館および在デュッセルドルフの日本総領事館の後援を受けています。

【日時】平成27年8月6日（金）8:15 ～ 8月9日（日）6:15

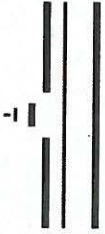
【場所】広島大学法人本部棟玄関ロビー（東広島キャンパス）

広島大学中央図書館玄関ロビー（ // ）

広島大学東千田総合校舎S棟玄関ロビー（東千田キャンパス）

【お問い合わせ先】

広島大学学術・社会産学連携室 研究企画室
TEL:082-424-4427 FAX:082-424-5890



WESTFÄLISCHE
WILHELMS-UNIVERSITÄT
MÜNSTER

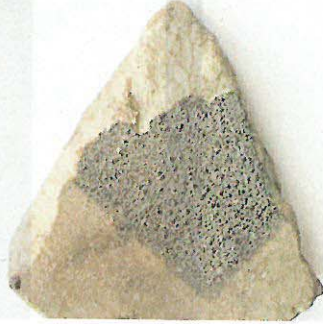


Recognition of History



Satomi Edo

August 6th, 2015, 8.15 am
University of Münster, Foyer
Schlossplatz 2
D - 48149 Münster



On August 6th, 2015, the world will remember the explosion of an atomic bomb above the city centre of Hiroshima seventy years ago. The University of Münster will commemorate this devastating event together with Hiroshima University with the installation performance "Recognition of History" by Satomi Edo.

In 2012 the University of Münster received as a gift from Hiroshima University six shards of roof tiles. These tiles were collected by students from a river bed near ground zero. Molten by the heat of the atomic blast, their blackened surface attests to the devastating powers of the atomic bomb. To honour this gift, students of the Academy of Fine Arts Münster were asked to develop art projects on the tiles and their message. From all the submissions the performance "Recognition of History", proposed by Satomi Edo, was chosen by a jury, consisting of professors of the academy and members of the university staff.

The performance will take place in the entrance hall of the universities main building, Münster castle. Built in the late 18th century for the prince bishop of Münster, the castle was almost completely destroyed in World War II. After its reconstruction as the main building of the university of Münster the castle today houses the central ceremonial hall of the university as well as several lecture halls and is seat of the rectorate. The building sees hundreds of visitors a day – students, professors and staff but many tourists as well.

„Recognition of History“
is an art performance in remembrance of the atomic bombing
of the city of Hiroshima on August 6th, 1945.

Commissioned by the University of Münster
in collaboration with Hiroshima University
and the Academy of Fine Arts Münster

Under the patronage of the Consulate General
of the Federal Republic of Germany Osaka-Kobe



Satomi Edo studied art and worked as an art teacher in Kyoto, Osaka and Hyogo. In 2004 she began her studies at the Academy of Fine Arts Münster and is today member of the joint master class of the brothers Professors Maik and Dirk Löbbert. She already has successfully presented her work at several exhibitions in Germany and Japan.

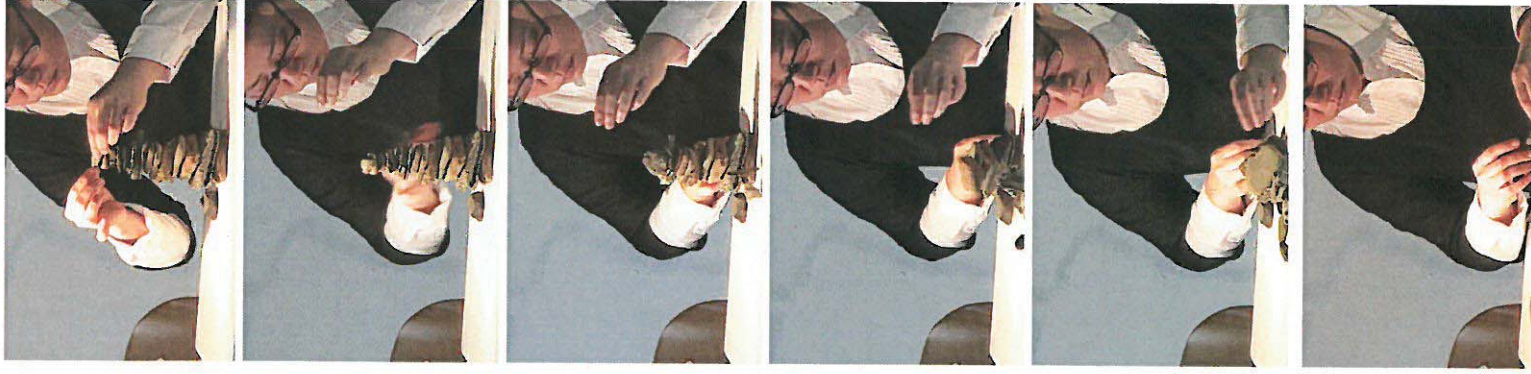
The artist imagines the tiles as part of a small tower like the signs or landmarks one can traditionally find in rough and dangerous terrain e.g. along the St. James Trail. In her performance the artist will place the tiles and other stones one above the other and as the resulting tower will collapse, she will repeat this process again and again. This is to caution the viewer that due to the existing arsenal of atomic bombs the threat of an atomic holocaust is still existent. Again and again one needs to make a stand against the cold war mind set. Like Sisyphus one should not lose ones visions, one can learn from setbacks, mistakes and even destruction – all this is shown by the repetitive act of piling stones and tiles.

Satomi Edo herself will start the performance at 8.15 am, the time when on August 6th, 1945, the atomic bomb was dropped. After seven minutes the performance will stop and a video loop of the performance will take over. For seventy hours the endless piling of tiles and stones will be broadcasted not only at the entrance hall of the Münster castle, but on screens all over the campus of the University of Münster as well as the campus of Hiroshima University and the Academy of Fine Arts Münster.

For further information please contact:

at Münster
Dr. Eckhard Kluth, Curator of the Art Collections,
University of Münster
eckhard.kluth@uni-muenster.de

at Hiroshima
Norifumi Miyokawa PhD, Senior Research Administrator, Research
Planning Office, Hiroshima University
miyokawa@hiroshima-u.ac.jp



「INU 学長サミット」

広島大学において、毎年開催している INU 学生セミナー「地球市民と平和」の 10 周年および被爆 70 年を記念し、INU 加盟大学長等による学長サミットを開催します。

8 月 5 日から 11 日に本学において開催される「INU 学生セミナー」を視察するほか、8 月 7 日広島市内において、学長サミットを開催します。

INU 加盟大学間の連携強化と今後の事業展開について議論し、INU 学生セミナーをはじめとした学生・教職員の交流事業などの継続・発展につながることを期待されます。

■ INU 加盟大学 代表者会合日程（予定）

8 月 5 日： INU 全加盟大学の教職員及び学生とのウェルカムレセプション

8 月 6 日： 平和記念式典

8 月 7 日： 広島市平和記念資料館見学

被爆体験講話

学長サミット

晩餐会

8 月 8 日～11 日： INU 学生セミナー

「地球市民と平和」：女性・平和・安全保障

基調講演及び INU 加盟大学教員によるワークショップ

模擬国連

（参考）INU 加盟大学（2015 年現在、本学を含む 10 カ国 12 大学）

オーストラリア フリンダース大学

米国 ジェームス・マディソン大学

スウェーデン マルメ大学

インドネシア カトリック・パラヤンガン大学

イタリア サクロクオーレ・カトリック大学

スペイン ロビーラ・イ・ビルジリ大学

南アフリカ ネルソン・マンデラ・メトロポリタン大学

ドイツ ビアドリナ欧州大学

アルゼンチン リトラル国立大学

日本 立命館大学、立命館アジア太平洋大学、広島大学

【お問い合わせ先】

広島大学教育・国際室 国際交流グループ

TEL:082-424-6182 FAX:082-424-6170

INU (International Network of Universities) について

■ INUは、学生や教職員の交流、遠隔授業の開発・実施、大学経営に関する情報交換などを目的に、オーストラリアのラ・トロープ大学オズボーン前学長が提唱して1999年に設立され、2015年現在、10カ国12大学が加盟しています。

■ 広島大学は2000年より加盟し、2003年からは理事校に任命されました。年次総会や理事会の他、交換留学をはじめとする教育活動、研究に関するワークショップや、職員研修の協力などを通して、加盟大学間の情報・意見交換などを行っています。INUの活動は、本学の重要な国際戦略の柱の一つとなっています。

■ 加盟大学：

フリンダース大学（オーストラリア）

マルメ大学（スウェーデン）

サクロクオーレ・カトリック大学（イタリア）

ロヴィラ・イ・ヴィルジリ大学（スペイン）

ピアドリナ欧州大学（ドイツ）

ジェイムス・マディソン大学（米国）

ネルソン・マンデラ・メトロポリタン大学（南アフリカ）

カトリック・パラヤンガン大学（インドネシア）

リトラル国立大学（アルゼンチン）

立命館大学（京都）、立命館アジア太平洋大学（大分）、広島大学

大学生をやってみよう

と き：平成27年 **8月8日** (土)
10:00▶15:20(予定)

ところ：広島大学総合科学部

募集人数：約100名

対象者：高校生，一般市民

参加費
無料

●内 容

- 10:00 入学式
- 10:10 講義1「ヒロシマの訴える平和：
被爆70年をふりかえって」
- 11:10 講義2「エネルギー問題と水素社会」
- 12:00 昼 食
- 13:00 セミナー
- 14:50 卒業式

詳細は募集要項をご覧ください。

●申込期間 平成27年7月1日(水)～7月17日(金)

●申込方法 以下の2通りの方法でお申込みください。

■ハガキの場合

募集要項を下記の申込先にご請求のうえ、募集要項内添付のハガキに必要事項を記入してお申込みください。

■Eメールの場合

ホームページから「平成27年度一日体験入学申込書」をダウンロードのうえ、Eメールに添付してお申込みください。

詳しくは総合科学部ホームページをご覧ください。

●申 込 先 広島大学総合科学研究科支援室(学士課程担当)

●問合せ先 〒739-8521 東広島市鏡山一丁目7番1号
TEL. 082-424-6320 FAX. 082-424-8246
Eメール souka01@hiroshima-u.ac.jp
HP <http://www.hiroshima-u.ac.jp/souka/s/>

シンポジウム

「人の平和と安全ー被爆70周年・広島土砂災害1周年」

テーマ「人の平和と安全ー被爆70周年・広島土砂災害1周年」
主催 広島大学大学院法務研究科
日時 2015年8月22日(土) 13:30~16:50
場所 広島大学東千田キャンパス東千田総合校舎(S棟)302講義室
(広島市中区東千田町1-1-89)
対象 市民一般、学生、弁護士、研究者、修了生など
進行

- (1) 挨拶〔研究科長〕
- (2) 趣旨説明〔新井教授(憲法)〕
- (3) 基調報告1: 友次准教授(広大平和科学研究所〔国際法〕)
テーマ: 平和と被爆70年ー国際法の立場からー
- (4) 基調報告2: 堀田教授(広大法学部〔民法〕)
テーマ: 大規模災害と復旧ー民法学の立場からー

〔休憩 15分〕

- (5) パネル討論+コメント+質疑
司会〔田村教授(民法)〕
 - ・コメントイターのコメント
 - ①儀保弁護士〔沖縄出身・広大LS修了〕(沖縄からみた平和の在り方)
 - ②学生1名〔広大LS学生〕(東日本におけるボランティア経験)
 - ・パネル討論
パネラー5人〔報告者2名+新井教授+儀保弁護士+学生1名〕
- (6) 修了挨拶〔研究科長〕

【お問い合わせ先】

広島大学法務研究科支援室
TEL:082-542-7014 FAX:082-542-6964

9

11

12

被爆 70 年に係る事業計画

■事業名：①似島原爆死没者御遺骨御遺品発掘作業 ②発掘御遺品の展示

日時： ①発掘作業は 8 月～9 月中にスタートし、終了は来年までかかる見込み

②展示会は 12 月～2 月中（発掘途中に実施か）

場所： ①広島市南区似島 ②未定（広島市内にてということは決定）

概要： 原爆死没者の御遺骨御遺品を発掘し、健在なご遺族がまだおられる本年に原爆死没行方不明者の手掛りを探す。

■事業名：チェコ共和国へ原爆ドーム破片「デンティル」の発送

日時： 10 月～12 月

場所： 本学医学資料館にて発送準備をおこなう。

概要： ドーム設計者の母国にドーム破片を展示し、平和発信をおこなう

備考： ★現在、在日チェコ大使館に対し、受贈につき可否打診中の段階です。

■事業名： 平和公園供養塔前にての慰霊音楽祭

日時： 10 月～12 月

場所： ①平和祈念公内無縁仏供養塔前

②ドーム前対岸元安川テラス。

概要： 原爆にて死没され、無縁仏となられた方々への慰霊をおこなう
演奏者は広島大学学生ほか、原爆死没者ご遺族など

★現在、原爆瓦発送で実績のあるウィーン国立音楽大学から演奏者二名招聘依頼中。参加につき打診中の段階です

【お問い合わせ先】

広島大学教育・国際室 国際交流グループ 嘉陽
TEL:082-424-4550 FAX:082-424-6179

コンチェルト スピリトゥアーレ ■ チャリティーコンサート

被爆70周年を追悼する 歌の展覧会

2015年

9月5日(土)

【時間】13:30開場 / 14:00開演

【会場】アステールプラザ 大ホール
(広島市中区加古町4-17)

【企画・指揮】西尾 優

【運営】被爆70周年を追悼する歌の展覧会・実行委員会

【ピアノ】秦 正子・矢野 文乙

【合唱】

●コーロ・アカデミコ

●コールセシリア

●セラヴィー

●向原女声合唱団

●広島大学合唱団

OB・OGおよび現役生有志

※演奏曲目は変更されることがあります

【後援】

広島市、広島市教育委員会、東広島市教育委員会、中国放送、中国新聞社、広島エフエム放送、FM東広島89.7、広島県合唱連盟、広島大学、広島大学音楽協議会

入場
無料

1. 混声合唱『ヒロシマ』1949年8月6日に寄するうた
エドムント・フルンデン詩、山田耕祿作曲

2. 女声合唱 米田栄作原爆詩集『ヒロシマ不慮』による「四章」から
「昇天」永井主憲作曲 「一身抄」黒住影博作曲

3. 独唱とピアノによる 組曲『ひろしま』より
「おとうと」橋爪文詩 青英権作曲 <ソプラノ 松永知子/ピアノ 島谷美佳>

4. 混声合唱 組曲『川』より
「山と川」「いくさ」「よみがえる川」栗原貞子詩 永井主憲作曲
※昭和41年度芸術祭音楽部門の参加作品としてRCCの委嘱で作曲

5. 世界のさまざまな作曲家による、死者を追悼する『ミサ曲』

REQUIEM(入祭唱) G. フォーレ(1845-1924 フランス)

SEQUENTIA(続唱)

Dies irae W.A. モーツァルト(1756-1791 オーストリア)

Liber ... Judex R. シューマン(1810-1856 ドイツ)

Rex tremendae C.C. サン＝サーンス(1835-1921 フランス) <テノール 越智慎悟>

Confutatis A. ドヴォルジャーク(1841-1904 チェコ)

Lacrimosa W.A. モーツァルト

OFFERTORIUM G. フォーレ <バスバリトン 安東省二>

SANCTUS G. ヴェルディ(1813-1901 イタリア)

AGNUS DEI A. サリエリ(1750-1825 イタリア)

COMMUNIO D. チマローザ(1749-1801 イタリア)

LIBERA ME G. ヴェルディ <ソプラノ 高田陽子>

※このプログラムは52年間の広島大学合唱団常任指揮者退任を記念して、これまで広島大学合唱団の定期演奏会で取り上げた曲の中から構成しました。

演奏会についてのお問合せ：被爆70周年を追悼する歌の展覧会・実行委員会

●e-mail> nishio70memorial-sec@ml.hiroshima-u.ac.jp

●Web サイト> <https://sites.google.com/site/nishio70memorial/>

ATTENTION

広島大学合唱団のOB・OGで、ステージに参加いただける方を募集しております。希望される方で、手続き等がご不明という方は左記e-mailにご連絡ください。

広島大学北京研究センター

第10回日本語作文スピーチコンテスト案内

広島大学北京研究センターでは、下記のとおり、「第10回日本語作文スピーチコンテスト」を開催いたします。このコンテストは、中国の大学等で日本語を学んでいる学生のみなさんを対象にしたものであり、将来日中両国の架け橋となる人材の育成を目的としています。2006年に第1回目のコンテストが開催され、今年で10回目を迎えます。多くの方の参加を期待しています。

1. コンテストスケジュール

- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| ①作文の募集締切り | 2015年9月25日（金）厳守 |
| ②作文審査 | 2015年10月16日（金）までに審査結果を各大学の代表者（教員）に通知 |
| ③優秀作文執筆者によるスピーチコンテスト | 2015年11月14日（土）（於：首都師範大学） |

2. 参加条件

下記の条件すべてを満たす者：

- ①スピーチコンテスト開催日に、中国の大学に在籍する本科生。大学院生は不可。
- ②大学在学中に、半年以上日本での滞在経験の無い者。
- ③優秀賞を得た場合、2015年11月14日（土）開催のスピーチコンテストに参加可能な者。

3. 作文のテーマ

「平和な未来へー私からのメッセージー」

4. 作文の分量

- ①1600字以内
- ②1行を40字とし、45行以内で書く。
- ③余白は十分にとること。

5. 応募方法

参加大学は、代表者である教員が添付ファイルにて「推薦作文5篇以内」と「別紙の応募申請書」に必要事項を記入のうえ、締切り日までに下記のいずれかに送る。

広島大学北京研究センター

副センター長 張立新 bj_hirodai@yahoo.co.jp
センター長 佐藤暢治 brc@hiroshima-u.ac.jp

*応募作文受領後に、受付のメールを送るが、1週間経ってもメール連絡が無い場合には、問い合わせること。